

「家がいいね」 第10号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2005.3.3

あいさつをする時に、気になる事があります。感謝の気持ちを言う時にも、「すみません」を多用することです。なぜ率直に「**ありがとう**」と言わないのでしょうか。相手に迷惑をかけたような謝罪の意味を込めても、自分の嬉しい気持ちは伝わりにくいように思っています。婉曲で無難な言葉より、素直な喜びの気持ちを返したほうが、きっと気持ち好いでしょうにねえ。

暖冬のはずが

TVの報道を聞きつつ季節は先へ先へと進むものかと思っていました。梅の開花がやや遅れ、桜前線の到達も今月末と聞き、不思議な気持ちです。自然は人間の思い通りにならない動きをしているのです。昨年はこの時期に彼岸桜を見たようですが今年はまだ蕾も硬いと聞き、季節の奥深さを思います。



今、梅の花が満開

ミイラ盗りがミイラに

きちんとした準備なしに自分だけは大丈夫と思つて臨むと、結局同じ過ちをすると言つ警句です。専門的介護の世界でも同じようなことがあります。介護施設の職員への連合の調査で、入所の利用者に対して、3割の職員が憎しみの感情を経験し、実際に虐待を1割強、縛る等の身体拘束を6割の職員が体験し、職員の疲労度が強いほどその割合は高まるとの報告がありました。(連合HP参照)

家族だけの介護で疲れの中で憎しみや虐待があり、公的介護でその問題を解決しようと介護保険が始まったはずで「専門的な介護」は技術的なことだけでなく、介護する側の心の問題もケアしながら取り組むものではなかったのでしょうか。



お知らせ 1

無料

県立一志病院講演会「緩和ケアを考える」

時：平成17年3月24日(木) 13時から

所：一志郡白山町 白山ビレッジ・ホテル

前半「在宅ケアこそホスピスの原点」を担当

後半「終末期における心のケア」沼野尚美さん

(六甲病院緩和ケア病棟 チャプレン)

お知らせ 2

無料

第1回「四日市地域医療を考える集い」

時：平成17年3月24日(木) 18時から

所：四日市市 ザ・プラトンホテル

前半「市立四日市病院・病診連携からの提言」

後半「在宅医でこそ可能な最期の看取り」担当

お知らせ 3

無料

日本尊厳死協会・東海支部「春の集会」

パネルディスカッション

「死にゆく人と共に生きる」

当院も在宅医療に関わっている医師と看護師として、この発言に参加する予定です。

時：平成17年4月9日(土) 14時から

所：アスト津 アストホール(津駅東口)

自分の生き方を、最期まで意思としてどのように伝えるのか、良い話し合いになる事を期待します。

お知らせ 4

入場料有(詳細は後日)

みえ生と死を考える市民の会 講演会と総会

時：平成17年6月5日(日) 13時から

所：三重県文化会館 中ホール(津駅西口より)

題：「なぜ家なのか ホスピスの原点」

講師：川越厚(かわけいこう) 医師

在宅ホスピスの草分け、川越医師の活動は、東京の下町で20年続いています。

春を呼ぶ神楽



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県度会郡御園村高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp

HP <http://tcp-ip.or.jp/~takuro>